

人工知能学会へのジャーナル論文投稿
吉田 昌太

1 前回の課題

先月までは、並列分散対話型遺伝的アルゴリズムの研究をジャーナル論文に投稿する準備として、様々な学会のジャーナル論文の調査を行っていた。そして、人工知能学会のジャーナル論文誌に投稿することを決め、人工知能学会のジャーナル論文のスタイルにしたがって、論文を書き始めたところであった。

前回の課題を以下に示す。

- 論文を引用して「はじめに」を書き直す
- 論文の章立てを考える
- 書ける部分はどんどん書いていく

2 研究の進捗状況

2.1 論文の引用

「はじめに」における論文の引用に関して、まず最初にどの部分の内容に論文を引用できるかどうかを考え、暫定的に作成した「はじめに」の内容から、まず以下の 4 つについて論文を引用できると考えた。

- 対話型進化計算についての部分
- 遺伝的アルゴリズムについての部分
- 対話型遺伝的アルゴリズムについての部分
- 対話型遺伝的アルゴリズムの問題点についての部分

これらの部分について、引用できる論文を探すために論文調査を行った。また、引用する論文の数としては、まだ少ない方なのでさらに論文を引用できる内容はないか、または追加できないかなどを検討している。

「はじめに」において、感性について触れている段落があるのだが、内容が曖昧であるので、この内容を載せるかどうかは確定できないということであった。そこで、「はじめに」に載せるだけの内容を書けるだけの論文があるかどうかを調査している。今後もこの部分については、慎重に検討することにする。

2.2 論文の章立ての検討

「はじめに」を書き終えた後は、章立てにしたがって論文を書き進めていく必要がある。「はじめに」の執筆と同時に論文の章立てについても検討した。自分なりに検討し、暫定的に決定した章立てを以下に示す。この

章立てに関しては、まだおおまかなものであり、今後論文を書き進めていくにあたって、いくつかの修正を加えていくものとする。

- 1 はじめに
- 2 対話型進化計算法
 - 2.1 対話型進化計算法とは
 - 2.2 対話型進化計算法の応用
- 3 対話型遺伝的アルゴリズム
 - 3.1 遺伝的アルゴリズムとは
 - 3.2 対話型遺伝的アルゴリズムとは
- 4 並列分散対話型遺伝的アルゴリズム
 - 4.1 並列分散対話型遺伝的アルゴリズムとは
 - 4.2 並列分散モデルとは
- 5 提案システム
 - 5.1 対象とする設計問題
 - 5.2 設計変数
 - 5.3 実数値遺伝的アルゴリズム
 - 5.4 突然変異個体と移住個体
- 6 主観評価実験とその考察
 - 6.1 主観評価実験
 - 6.2 実験結果
 - 6.3 考察
- 7 結論

3 今後の課題

「はじめに」にどのような内容の文章を引用するかについてある程度の目安が立ってきたので、引用する論文の調査を早く終えて「はじめに」を一通り完成させることが必要である。また「はじめに」において感性の内容について触れるかどうかは再度細かく検討する必要がある。ジャーナル論文全体については「はじめに」の執筆が終わり次第、暫定的に考えた章立てにしたがって書き進めていく。章立てに関しては、書き進めながら細かい部分を修正していくことにする。

今後の課題を以下に示す。

- 「はじめに」を一通り完成させる
- 章立てにしたがって、書き進めていく
- 書き進めながら、章立てを修正していく